

東京都立墨田特別支援学校

令和7年1月15日、22日（水）に、本校にて校内研究発表会を実施しました。

## 全校研究テーマ

「学習指導要領を踏まえた授業改善（各教科等での育成すべき資質・能力(三つの柱)を考える）～学びに向かう力、人間性等を育むために～」

## ねらい

- ① 小・中・高等部の垣根を越えて教科ごとにグループを編成し、一貫した教育を目指して授業研究を行う。
- ② 研究を通して、学習指導要領を踏まえた指導についての理解を深め、授業改善を進める。
- ③ 各教科等の発表や講師の先生からの助言を基に、自己の授業改善につなげる。

## 発表会の様子



研究グループごとの発表



下山直人先生の講評

本年度は「学びに向かう力、人間性等の育成」をテーマに教科等のグループで研究を進めてきました。

昨年度の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を伸ばさせるための研究成果を生かし、児童・生徒が生活の中で生かせる力を高め「学びに向かう力、人間性等」を育むためにどのような指導や工夫が必要かを各教科グループで話し合い、仮説を立てて検証し授業研究を進めてきました。

15日は「国語①②」「算数・数学①②」「音楽」「作業学習」「外国語」グループ、22日は、「図画工作・美術」「体育・保健体育」「生活単元学習・理科・社会」「自立活動」グループが、1年間の研究成果を発表しました。

講師の下山直人先生（筑波大学非常勤講師）からは、「どの教科においても、これからの社会を生きる児童・生徒に必要な育成すべき力を吟味・検討し、指導の方向性を明確化したことで、指導方法や手だて・教材等に工夫を重ねることができ、結果として児童・生徒の期待する姿を引き出すことにつながった」という講評をいただきました。また、今後期待することとして、自立活動での学びを土台にしつつ、教科間のつながりを考慮した横断的な視点に立ち、年間を通した学びをデザインしていくことが挙げられました。

新校分離を控え、小・中・高等部の教員が共に研究することができる期間は限られており、指導の一貫性・学びの連続性を保証していけるよう、今回の研究成果を次年度の日々の指導に生かし、児童・生徒の成長を支える教育を追究してまいります。

次回は・・・「令和7年度の研究について」（令和7年6月発行予定）